

安代りんどうの魅力がたくさんの人に届けたい

いわてフラワーコンテスト2021
農林水産大臣賞 受賞

三浦 昭則 さん

みうら・あきのり 39歳 日瀬通



昭和56年生まれ。祖母、両親と暮らす。趣味はドライブで、コロナが明けたら海や県外観光地に遠出したいと話す。テレビを見ながらの晩酌が好きで、最近はレモンサワーにはまっている。好きな言葉は「継続は力也」。リンドウを始めた祖父を尊敬する。

9月3日に矢巾町の純情産地
営農支援センターで開かれた
いわてフラワーコンテスト

2021で三浦昭則さんの作品
「りんどう 安代の秋」が最優秀
賞の農林水産大臣賞に輝いた。

「初めての出品で、選ばれるとは思ってもいなかった」と驚きの声を漏らすものの、花1本1本の美しさはもちろん、一束として全体を見たときのバランスに重きを置いた作品は、出品総数129点の中で存在感を示し、評価を得た。

リンドウ農家の道を選んだのは大学卒業後。実家のリンドウを手伝う中で、努力した分だけ成果が表れるところに面白さを感じ、就農した。病害虫に弱いリンドウを守るため、5月から10月にかけて週1回、さらに病害虫が発生する都度農薬散布をする。かっぱを着ての作業に、夏場は一日で体重が4kg近く減ることも。「どれくらい歩いたか試しに計ってみたら、3万5千歩

近かった」と笑って話す。品質にこだわりの出荷先からのクレームが全くないのが自慢。「手に取った人が喜ぶような、自分が買いたいと思うような品質を心掛け、責任を持って育てている」と真摯にリンドウと向き合う。

令和2年4月からはJA新しいわて八幡平花卉生産部会の青年部長を務め、少しでも多くの人に安代りんどうの魅力を知ってほしいと周知に力を注ぐ。「維持ではなく、安代りんどうをどう発展させるかがこれからの課題。東京五輪のビクトリーブルーにリンドウが使われたように、仏花としてだけでなく、さまざまな用途で楽しんでもらいたい」と展望を抱く。



中秋の名月にちなんだ秋の花を市役所に飾る三浦さん

【広告】

いぼ、癌、免疫系等
コミュニティバス「にね眼科」バス停すぐ
薬のプロフェッショナルがあなたのご相談を承ります
漢方のあさひ薬局 西根中学校前店
公認スポーツファーマシスト 国際中医専門相談員 認定実務実習指導薬剤師
薬剤師 斎藤 貴将
八幡平市大更24-1-118(西根中学校前) TEL.0195-70-2311

編集後記

▽野駄の佐々木幸雄さんから情報提供を受け、桜の開花を取材。少しおれた姿に「もう少し早く教えれば良かったじゃ」と言われましたが、はかなげで十分きれいでした。通常と異なる開花を不時現象と呼ぶようで、同じ異常でも異常気象や収束しない新型コロナウイルスには参りますね。
▽リンドウ記事のため、8月の繁忙期にもかかわらず取材に協力していただいた農家の皆さんありがとうございました。リンドウの普及のため、リンドウ学習をしていたり、品種改良をしていたり地元の知らないことだらけでした。取材を通して発見が多く、日々勉強になっています。

（雅）